

# 被災地視察及び懇談会報告

全連小対策部長 千木良康志

1 日時 平成28年8月24日(水)午前11時～午後6時

## 2 参加者

<全連小>大橋会長・千木良対策部長・今城広報部長  
菊井事務局員

<宮城県>若生会長 他3名(現地にて3名の校長が参加・説明)

※山元町の視察案内…森憲一山元町教育長

<岩手県>柳村会長 他2名

<福島県>齋藤事務局長 他1名



旧中浜小学校にて 森憲一山元町教育長

## 3 内容

### (1) 学校訪問

- ① 亘理町立荒浜小学校(大村進校長) 鹿又政信安全担当主幹教諭による状況説明・施設案内
  - 震災当時～現在までの状況
  - 震災を風化させないために
    - ・ 繰り返し訓練する必要性…ねらいや目的を明確化する。
    - ・ 6年間・9年間を見通した防災教育…自助・共助・公助の意識を育てる。
    - ・ 地域への情報発信…児童・生徒・保護者だけでなく地域全体
- ② 亘理町立荒浜中学校 渡邊裕之校長による施設案内・説明
- ③ 山元の復興・復旧事業について 車窓見学(森教育長による状況説明)
- ④ 旧山元町立中浜小学校 森教育長による施設見学・説明

### (2) 懇談

- ① 大橋会長挨拶
  - 実態・状況を把握して全連小としてしっかりとバックアップしていく。
  - 3県共通の課題、固有の課題を理解し、全連小としてできることをしっかりとやっていく。
- ② 宮城県からの報告
  - 防災教育推進に向けての主な取組
    - ・ みやぎ学校安全基本指針(平成24年10月)
    - ・ 安全担当主幹教諭・防災主任の配置と研修会の位置づけ
    - ・ SC・SSWの配置
  - 震災後の子どものメンタルヘルスと対応
    - ・ 人的な被害でも阪神淡路の4倍近い。その心の傷や衝撃の大きさが表面的に忘れられようとしており、子どもの心のケアが後回しにされている状況がある。
  - 子どもの心の問題として表れたもの
    - ・ 孤立する孤児・遺児
    - ・ 歪んだ攻撃性を示す問題行動
    - ・ 心の苦痛を訴え保健室に
    - ・ 家庭の崩壊が進行・親の養育機能の低下
    - ・ 教師・保育士の疲弊の深刻化 等
  - ◎ 目的指向性のある前向きな活動とともに、日常的に寄り添い話を聞いてくれる温かい存在が必要

#### ④ 岩手県からの報告

##### ○ 児童の状況

- ・ 心のケアが必要な児童の増加…登校渋り・多動等、精神的不安定な行動をとる児童の増加（震災時、乳児・幼児だった現在の低学年児童が多い）
- ・ 親の不安定さが子どもに影響…収入差・離婚・別居・虐待の増加
- ・ 運動不足による体力低下
- ・ 要保護・準要保護の増加

##### ○ 保護者の状況

- ・ 保護者の生活再建スピードに格差…公営住宅(安定／勝ち組)と仮設住宅(不安定／負け組み)
- ・ 新しい就業先確保・未就業の格差。失業・転職など不安定な生活
- ・ 保護者が生活環境のストレス等が児童に影響…子どもの世話が十分にできない家庭が多い。
- ・ 家庭の不和・離職・離婚・別居・転居が子どもの生活に悪影響
- ・ 精神的ダメージから立ち直れずに育児放棄・放任・虐待等

◎ 精神的に不安を抱える保護者が多い。カウンセリング等のサポートが必要。

#### ③ 福島県からの報告

##### ○ 学校の極小規模化…児童数は昨年度より2,278名減(震災後からは23,994名の減)

通常学級は63学級減・特別支援学級は53学級増

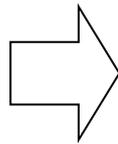
##### ○ 児童をめぐる教育課題への対応

- ・ 学力・体力の向上
- ・ 心のケアと教育相談体制の充実…避難の有無に関わらず、様々な環境の変化により不安やストレスを抱え、人間関係をうまく構築できない児童が増えている。SCやSSWの活用が増えている。情緒障害学級での8人の基準は、担任の負担が大きい。
- ・ 震災5年を経過して復興への取組…双葉地区の現状と今後の見通し
- ・ 防災教育への取組

◎ 東京電力福島第一原子力発電所事故による課題が山積

#### ⑤ 各県共通の課題

- 児童の心のケア
- 学力・体力の向上
- 新たな課題への対応
- 震災を風化させない取組



加配教員(復興加配)やスクール  
カウンセラー等の役割は重要

→ 継続措置への強い要望